

2022年6月13日

三池港物流株式会社

安全衛生推進室

VR危険体感教育報告

デンカ株式会社のご厚意により初めて、危険体感教育を体験する事ができました。

仮想現実（バーチャル・リアリティ）による、事故体験を体感できるため今回は新入社員、安全専任者に危険体感教育を経験してもらいました。

下記のとおり報告いたします。

記

1, 日時

2022年6月8日（水） 09:30-11:00

2, 場所

デンカ株式会社 大牟田工場 安全教育室

3, 参加者

当社9名（荷役課2名、港湾課2名、コンテナ課1名、輸送課1名、安全専任者1名、管理部1名、安全衛生推進室1名）

4, 教育内容（VR体験、DVD視聴の平行教育）

VR体験（バーチャル・リアリティ）2シナリオ

- ・タンクローリーからの転落
- ・つまずき転倒

DVD視聴（各種事故に関するヒヤリハット）

5. 参加者の感想

- ・VRでの体験は少し不思議な感覚であり怖くなかったけど、タンクローリーから転落するなど貴重な体験をする事ができて良かったです。
- ・仕事では他にも沢山の危険があるので、事故災害がないように、しっかり指差呼

称で確認し、仕事に取り組みたいと思います。

- ・ VR 機器を体験し労働災害とは身近に潜んでいるという事を再度確認する事ができました。
- ・ 労働災害において、死傷者の件数が多い転落・つまずきの VR を体験しましたが、外傷性リスクを伴わず危険感受性を高められたと思います。
- ・ タンクローリーの上から転落した場合や足元の物につまずいて転倒するといったものを VR で見ました。現場での定められたルールを守り業務をこなしていきたいと思います。
- ・ 初めての VR 機器を体験したのでとても感動しました。VR 機器ゴーグルをつけてみると、本当にその世界に入ったかのような感覚になり、つまずき転倒を体験し、職場や日頃の日常生活でも気を付けなければいけないと思いました。
- ・ タンクローリーからの転落、工場内でのつまずきの 2 場面の VR 体験でした。両場面ともに業務上起こりうる事でしたので、身につまされる思いでした。

初めての VR 危険体感を体験し、今まで各現場での演練・机上での教育等と異なった視点で危険体感教育を経験したことは、必ず 職場の安全活動に役に立つと感じました。

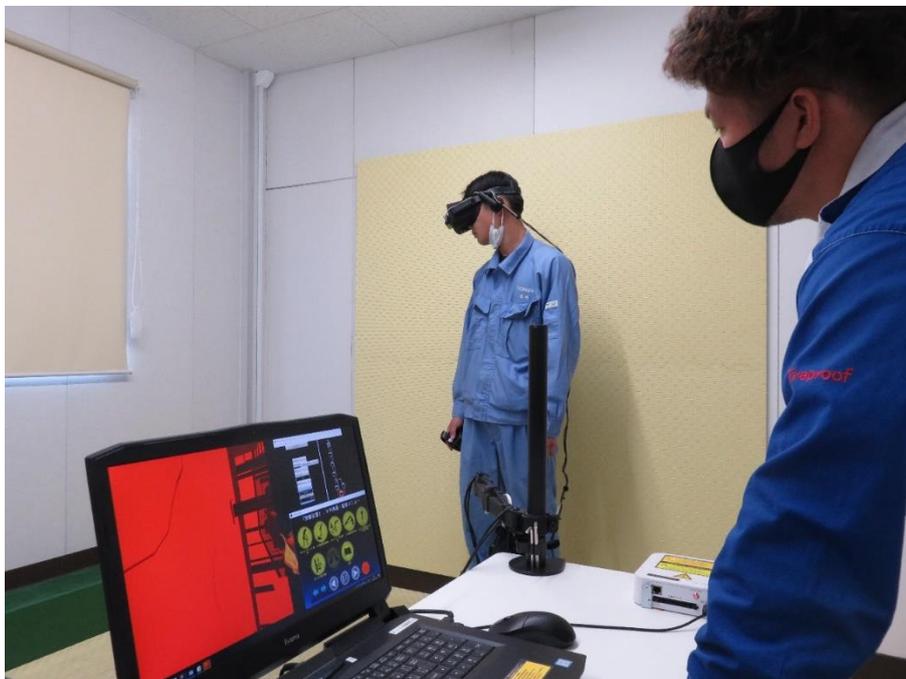
以上



6. VR（仮想現実）装置とは

危険な事象（事故）を、安全かつ効果的に体感・訓練する。

人間の本質的な直感を刺激することで心理的に怖い、嫌だと感じさせ、危険感受性を高める装置です。



ゴーグルをつけて VR 体験中